

2

〔 出雲崎高校 ・ 教育の視点2 〕

**私の個性も出来事も全てが  
プラス：マイナスイコール50：50**

身近なところ(童話)に“教育”を考えるヒントがある！

- 続いて、本校の教育の視点の2つ目です。

それは、

**“深い自己理解に基づいた自己指導能力の獲得”**  
です。

その具体をつくる一つが

**私の個性も出来事も全てが**  
**プラス：マイナス＝50：50** となります。

少しピンとこないと思うので、これもクイズ形式で説明します。

【クイズ2】

童話「ウサギとカメ」で、再試合でもカメが勝つ方法は？



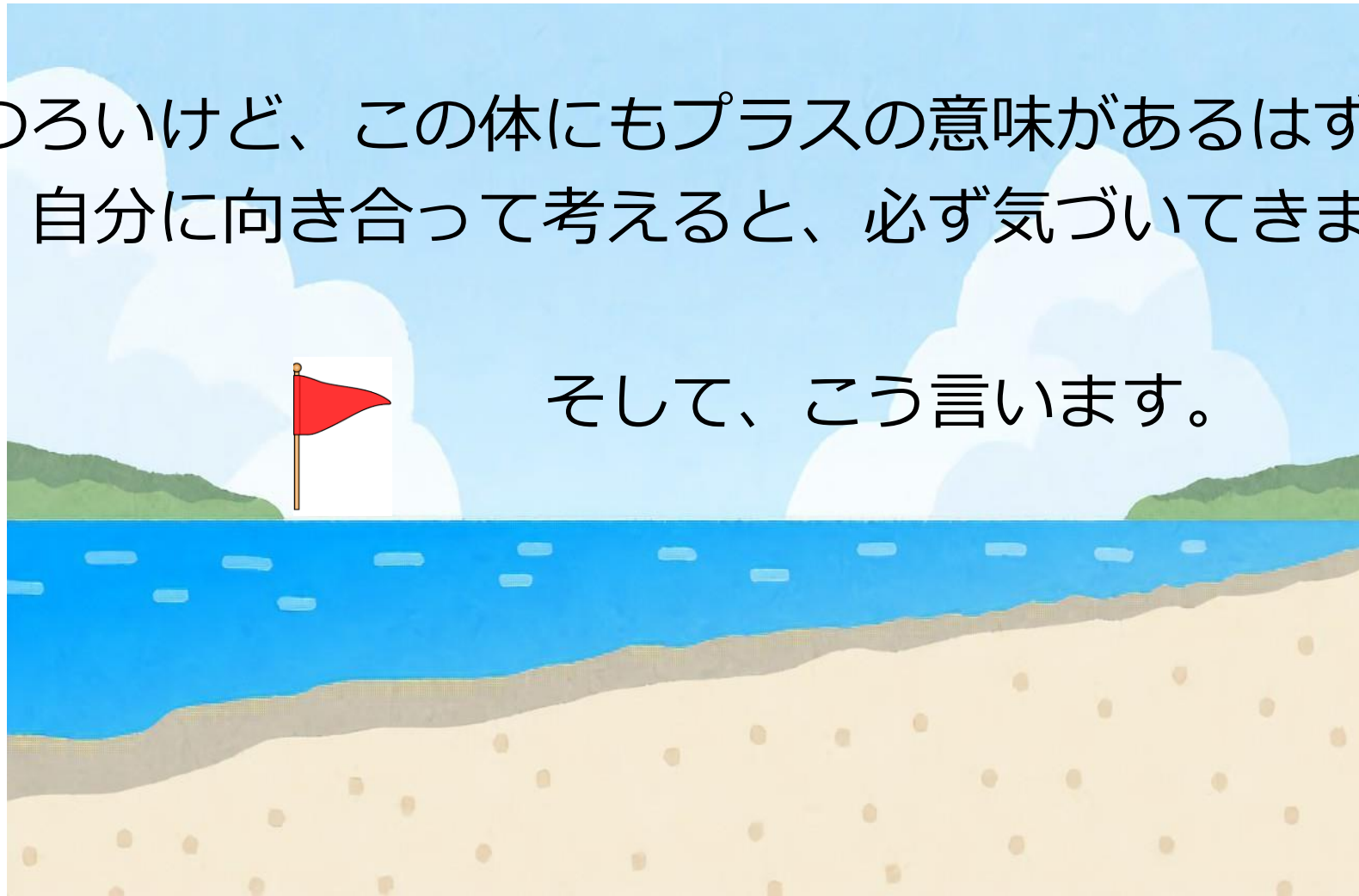
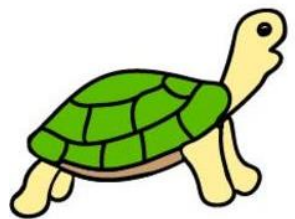
- 「ウサギとカメ」の話で、ウサギからカメが再試合を申し込まれました。ウサギは、今度は寝ないよ！と覚悟して勝負に臨んできています。では、カメが再試合で勝つ方法は？。
- さて、どうしましょうか？  
(カメのコーチになったつもりで、考えてください。)

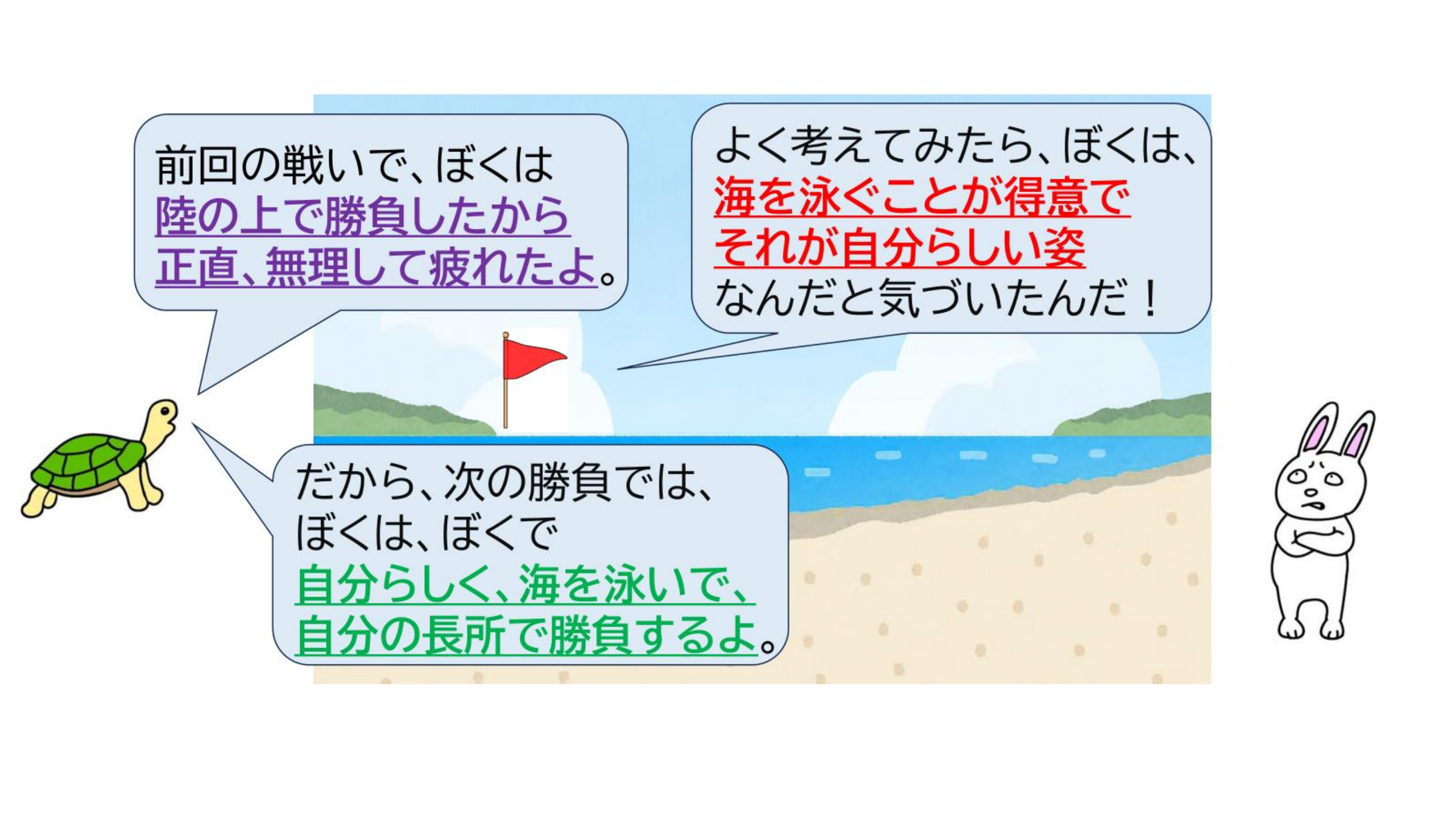
ここは海です。

カメが勝つために必要なのは、まずは深い自己理解です。

「私はのろいけど、この体にもプラスの意味があるはずだ！」  
など、自分に向き合って考えると、必ず気づいてきます。

そして、こう言います。

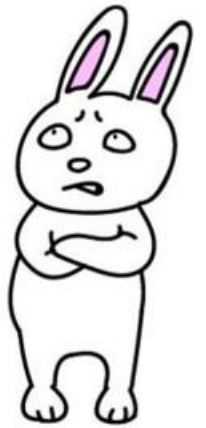




前回の戦いで、ぼくは  
陸の上で勝負したから  
正直、無理して疲れたよ。

よく考えてみたら、ぼくは、  
海を泳ぐことが得意で  
それが自分らしい姿  
なんだと気づいたんだ！

だから、次の勝負では、  
ぼくは、ぼくで  
自分らしく、海を泳いで、  
自分の長所で勝負するよ。



カメがこの様に考えられると、カメは試合までの期間を使って、自ら海で泳ぐ練習にあて、無理なく、イキイキと、希望を持って頑張ることが出来るようになります。主体性の発揮です！

**つまり、ここに気づくかどうかだけで、カメのその後の生き方も全く違った展開になると思います。**

**これが「深い自己理解に基づいた自己指導能力の獲得」であり、この哲学を本校のスクール・ポリシーに込めました。**

その一例が 「プラス：マイナス＝50：50」 です。

「この取組を実践していて、いいなー」と思う超有名人がいます。

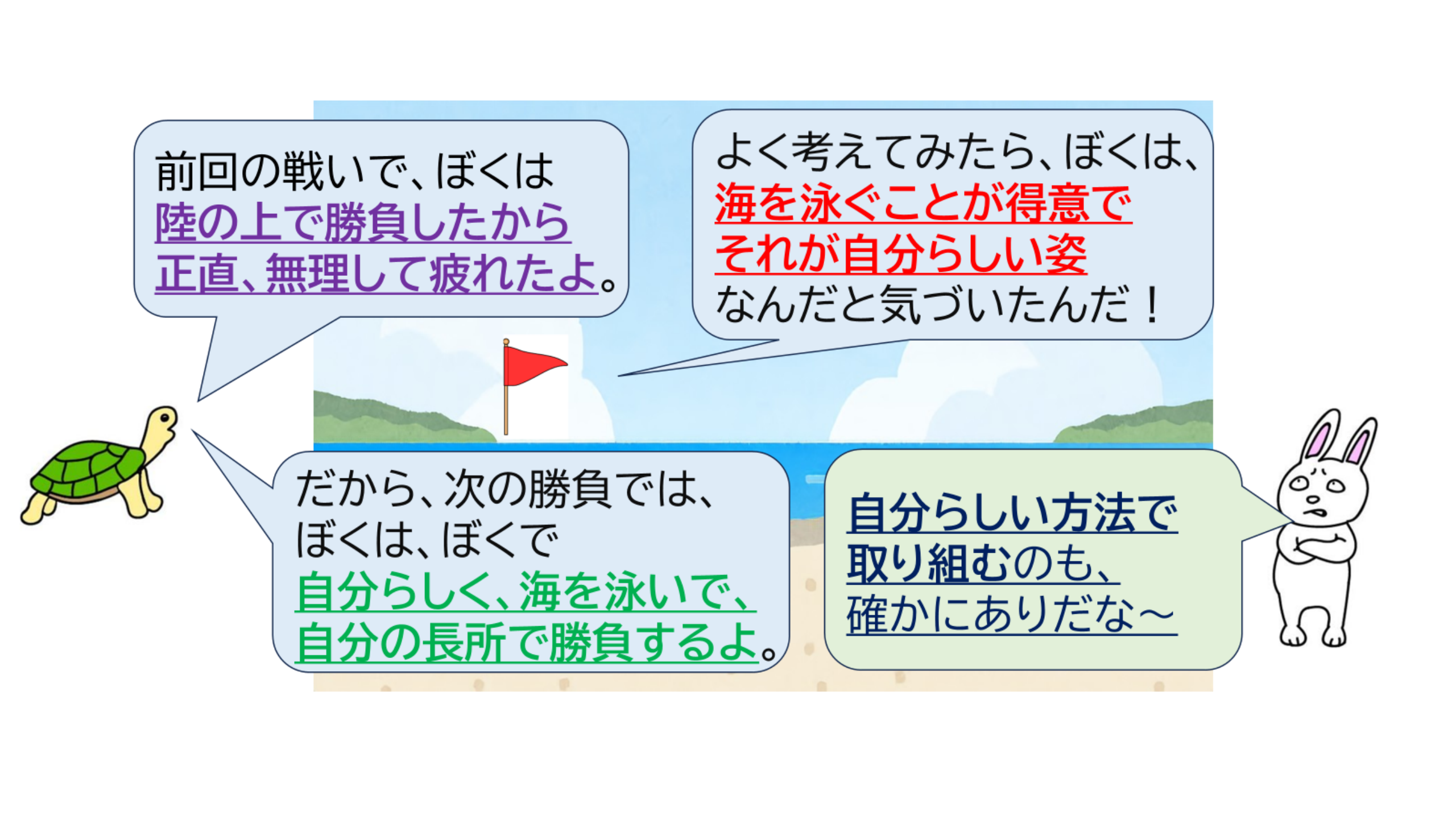
それが、**大谷翔平選手**です。







- 大谷翔平選手は、昨年度、肩のケガ・治療をしました。
- 二刀流の大谷選手は、決して「うわー、今シーズンは投げられないよー。自分らしくないじゃん！」と落ち込んだり、妥協したりネガティブに反応しませんでした。
- 彼がしたのはネガティブな現実に対して、  
「これって、肩を休ませる時間だよね。」  
「それじゃあ、足を活かして、浮いた時間を盗塁の練習にあてて、チームの勝利に貢献しよう！」  
とポジティブな思考回路の中で、計画を練って、取り組んでいます。
- そして、この大記録です。



前回の戦いで、ぼくは  
陸の上で勝負したから  
正直、無理して疲れたよ。

よく考えてみたら、ぼくは、  
海を泳ぐことが得意で  
それが自分らしい姿  
なんだと気づいたんだ！

だから、次の勝負では、  
ぼくは、ぼくで  
自分らしく、海を泳いで、  
自分の長所で勝負するよ。

自分らしい方法で  
取り組むのも、  
確かにありだな～

- 話をもどしますが、カメが「**深い自己理解に基づいた自己指導能力**」を大谷選手のように発揮すると、きっとウサギの心にも良い変化が生じてきます。

- ウサギはきっと「自分らしい方法で取り組むのものも、確かにありだな〜」と考えられるようになります。
- それを見た鳥さんは「じゃあ、自分は鳥だから、空で勝負するのが自分らしくていいなー！」なって、どんどんどんどん、「深い自己理解に基づいた自己指導能力」が、動物の仲間の中に広がっていくでしょう。

(この様な童話の展開は「個の尊重」が言われるこれからの時代にとっても良いですね。)

- この様な感じで、お互いがいい意味で刺激しあえる関係を学校の授業を中心につくることが大切だと思います。
- これからの時代は、このような発想で、お互いの個性をリスペクトして生きていくことが大切だと考えます。
- ということで **「深い自己理解に基づいた自己指導能力の獲得」**  
**をみんなで支え合いながら取り組んで行こうよ！**  
というのが **本校のカリキュラム・ポリシーの真髄**とも言えます。

まずは、周囲の人の力も借りて  
“自分”を正しく捉えます。

「一見、マイナスと思った中に、  
プラスの価値を見い出す」 など  
視野を広げる活動を通し、  
自分で自分を伸ばし、  
輝かせるようにします！

## 「自己探究」「総合的な探究の時間」

○本事例②で示した「プラス:マイナス=50:50」は思考方法の一例です。  
○小規模な単位制・定時制高校の強みを生かして、様々な“活動”を図り、  
一人ひとりの成長・発達を“階段を上っていく”様に確実に進めていきます。



ここでのポイントの1つは、自分を正しくと捉えることです。

この「深い自己理解」は、案外、大人でも難しいと思います。  
高校生がこれを行うには、指導者と指導時間が必要です。

本校でこの指導の中核を担うのが**学校設定科目「自己探究」と**  
**「総合的な探究の時間」**です。

そして、そこでは、定時制らしい「先生方のきめ細かな支援」が力を発揮していきます。